



至善館

Graduate School of
Leadership and Innovation,
Shizenkan University

2017 年度事業報告書

2018 年 5 月
学校法人至善館

1. 法人の概要

事業報告にあたり、まず建学の精神に立ち戻り、学校法人の沿革と概要について説明する。

(1) 建学の精神

世界の混迷が深まる中、企(起)業家に求められるスキルや能力、資質は飛躍的に高度化し、変化している。

今後、必要とされるのは、現下の諸課題に果敢に挑戦し、人類の可能性を積極的に開こうとする起業家精神と、事業と組織を経営する高度なスキルを兼ね備え、イノベーションに対峙しつつ、卓越した想像力と論理的・戦略的思考で未来を構想し、豊穡で安寧な経済社会の実現に貢献しうるプロフェッショナル人材である。

また、そのような人材は、高い志と倫理観、パブリックマインドを持ち、一個人、一事業、一企業の利益だけでなく、社会全体と未来の世代に対して責任を負う社会リーダーでなくてはならない。すなわち企(起)業家であり、社会の一員でもあり、何よりも一人の人間として、人格を使い分けることなく、自らの使命を認識し、能力をいかに発揮し、同時に自らの義務を進んで引き受ける覚悟を持つ人材、そのような全人格的なリーダーの育成することが求められている。

このような時代認識と世界認識のもと、われわれは「大学院大学至善館」を設立し、従来、経営リーダー人材教育のスタンダードであった米国型ビジネススクールを 22 世紀に向けて進化させる。開校後は、広く門戸を開放し、企業の経営人材、社会起業家、そして行政や地方自治体のリーダーなどを目指す人材を世界各地から受け入れて、研究・教育活動を推進していくことで、学生の「全人格な基軸力」「経営人材としての構想力」「リーダーとしての実現力」を涵養し、これら三つの資質と「個人としての意志力」を併せ持つ人材を育成、輩出していく。

本学は、世界の MBA 教育にイノベーションを起こすことを目指して設立するものであり、「22 世紀のビジネススクール」にふさわしい研究・教育活動を日本発・アジア発で推進していくことによって、産業界の要請に応えつつ、社会全体に貢献する。また、営利・非営利といったセクターを超えた人的交流を促進するとともに、国内外にネットワークを広げ、世界におけるリーダー人材教育の知の拠点となる。

(2016 年 10 月 31 日文部科学省へ提出した設立趣意書より一部抜粋)

(2) 学校法人の沿革

2017 年 8 月 29 日	文部科学省より寄附行為認可
2017 年 9 月 1 日	学校法人至善館設立
2018 年 2 月 1 日	大学院大学至善館第一期生募集開始
2018 年 2 月 5 日	School of Inspired Leadership (SOIL) との包括的パートナーシップ提携にあたっての基本方針の合意
2018 年 3 月 1 日	IESE ビジネススクールと MOU 締結

(3) 学校法人の事業の概要

本法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校その他の教育事業を営み、全人格リーダー人材の育成を目的とする。その目的の達成のために、大学院大学至善館イノベーション経営学院を設置する。

(4) 設置する学校・学部・学科

イノベーション経営学院 イノベーション経営専攻

(5) 学校・学部・学科等の学生の状況

入学定員 80 名

(6) 役員の概要(2018 年 3 月 31 日現在)

- ① 理事 10 名
- ② 監事 2 名
- ③ 評議員 26 名

2. 事業の概要

(1) 本年度の主な事業の目的・計画及びその進捗状況

文部科学省からの認可を得、学校法人設立初年度となる 2017 年度は、大学院大学至善館イノベーション経営学院の 2018 年 8 月 20 日開校に向け、次の 5 点に注力しながら、準備を進めた。

- ① 第一期生の募集
- ② キャンパスの設置
- ③ 奨学金制度の整備に向けた準備
- ④ 海外の教育機関とのパートナーシップ構築
- ⑤ 事務職員の採用

以下、各事項について、その内容を説明する。

① 第一期生の募集

募集要項の作成と告知広報に注力した。結果、本学の取り組みについて、雑誌「致知」や日本経済新聞朝刊への記事掲載が実現した。学生募集活動については、パートナー団体である ISL や本法人の理事・評議員を始めとする関係者からの紹介を中心に、企業から有為な人材を派遣してもらうべく新規派遣企業の開拓、その他、各国の駐日大使と面会を重ね、多様なバックグラウンドを持つ学生の確保に努めた。

② キャンパスの設置

キャンパスが入居するビルが 2018 年 6 月末竣工する。同年 7 月下旬入居に向け、一部、テナント内の工事を建物側工事と並行して開始した。その他内装工事は、2018 年度の実施となるが、各工事に向け、関連業者等とのすり合わせを進めた。

③ 奨学金制度の整備に向けた準備

奨学金制度の構築に向け、企業へ寄付の依頼や個人からのふるさと納税を通じた寄付の募集活動を積極的に展開した。

④ 海外の教育機関とのパートナーシップ構築

海外の教育機関との連携を進めるべく、スペイン・IESE ビジネススクールやインド・School of Inspired Leadership (SOIL) との業務提携を推進した。2018 年 2 月初旬に SOIL 創設者・学長 (Anil Sachdev 氏) が来日し、包括的パートナーシップの締結に向けた基本方針について合意した。

⑤ 事務局職員の採用

開学準備に向け事務局職員の採用活動を採用広告媒体や口コミを通じて行い、4 名の採用を行った。

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

① 収支計算書の状況

大学院大学至善館の開校は2018年8月20日であるため、2017年度の収入は寄付金がメイン、支出は開設準備のための人件費および経費のみであり、事業は予算どおり遂行された。以下、資金収支計算書および事業活動収支計算書の概略を示す。

<資金収支計算書>

(単位 千円)

科目	予算	決算	差異	備考
学生生徒等納付金収入	0	0	0	
手数料収入	105	245	-140	入学検定料の上振れ
寄付金収入	929,942	929,942	0	
補助金収入	0	0	0	
資産売却収入	0	0	0	
付随事業・収益事業収入	0	0	0	
受取利息・配当金収入	1	1	0	
雑収入	0	0	0	
借入金等収入	0	0	0	
前受金収入	0	0	0	
その他の収入	2,360	1,008	1,351	※
資金収入調整勘定	0	0	0	
前年度繰越支払資金	0	0	0	
収入の部合計	932,408	931,196	1,211	

科目	予算	決算	差異	備考
人件費支出	12,775	12,775	0	
教育研究経費支出	0	0	0	
管理経費支出	1,960	1,934	26	
借入金等利息支出	0	0	0	
借入金等返済支出	0	0	0	
施設関係支出	0	0	0	
設備関係支出	0	0	0	
資産運用支出	0	0	0	
その他の支出	1,507	31	1,476	※
資金支出調整勘定	-400	-483	83	
翌年度繰越支払資金	916,566	916,939	-373	手数料収入の上振れ
支出の部合計	932,408	931,196	1,211	

(注)金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

※補正予算時は、その他の支出における預り金について、収入支出を両建てで記載する総額表記にしていますが、決算時では差引差額のみを記載する純額表記にしているため、差異が生じています。

<事業活動収支計算書>

(単位 千円)

科目			予算	決算	差異	備考
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	0	0	0	
		手数料	105	245	-140	入学検定料の上振れ
		寄付金	929,942	929,942	0	
		経常費等補助金	0	0	0	
		付随事業収入	0	0	0	
		雑収入	0	0	0	
		教育活動収入計	930,047	930,187	-140	
	支出	人件費	12,775	12,775	0	
		教育研究経費	0	0	0	
		管理経費	1,960	1,934	26	
		徴収不能額等	0	0	0	
		教育活動支出計	14,735	14,709	26	
教育活動収支差額		915,311	915,478	-166		
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	1	1	0	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入計	1	1	0	
	支出	借入金等利息	0	0	0	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
		教育活動外支出計	0	0	0	
	教育活動外収支差額		1	1	0	
経常収支差額		915,313	915,479	-166		
特別収支	収入	資産売却差額	0	0	0	
		その他の特別収入	186,148	186,148	0	
		特別収入計	186,148	186,148	0	
	支出	資産処分差額	0	0	0	
		その他の特別支出	0	0	0	
		特別支出計	0	0	0	
	特別収支差額		186,148	186,148	0	
基本金組入前当年度収支差額		1,101,461	1,101,627	-166		
基本金組入額合計		-186,148	-186,148	0		
当年度収支差額		915,313	915,479	-166		
前年度繰越収支差額		0	0	0		
基本金取崩額		0	0	0		
翌年度繰越収支差額		915,313	915,479	-166		

(参考)

事業活動収入計	1,116,196	1,116,336	-140	
事業活動支出計	14,735	14,709	26	

(注)金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

② 貸借対照表の状況

2017 年度末の貸借対照表の状況は次の通りである。固定資産は、キャンパスに関するものである。流動資産は、設立準備財団から引き継いだ資金や寄付金を財源とする現預金を中心である。基本金には、第1号基本金(学校法人が取得した教育の用に供される固定資産)として、キャンパスの内装工事費を組み入れた。

<貸借対照表>

(単位 千円)

科目	本年度末	前年度末	増減	備考
固定資産	186,148	0	186,148	
有形固定資産	103,340	0	103,340	支払済みのキャンパス工事費用
特 定 資 産	0	0	0	
その他の固定資産	82,808	0	82,808	キャンパス敷金
流動資産	916,970	0	916,970	現預金
資産の部合計	1,103,118	0	1,103,118	
固定負債	0	0	0	
流動負債	1,491	0	1,491	
負債の部合計	1,491	0	1,491	
基本金	186,148	0	186,148	
第1号 基本金	186,148	0	186,148	キャンパスの工事費用及び敷金
第2号 基本金	0	0	0	該当なし
第3号 基本金	0	0	0	該当なし
第4号 基本金	0	0	0	設立初年度のため該当なし
繰越収支差額	915,479	0	915,479	
純資産の部合計	1,101,627	0	1,101,627	
負債及び純資産の部合計	1,103,118	0	1,103,118	

(注)金額は科目ごとに四捨五入しているため、合計額と端数差異が生じる場合があります。

(2) その他

① 有価証券、借入金、学校債その他重要な資産・負債、収入・支出の状況

特になし

② 収益事業の状況

特になし

③ 関連当事者等との取引の状況

特になし

以上